

キャンドルのつどい実施要項

2013.9

国立三瓶青少年交流の家

交流の家の研修をしてキャンドルのつどいを実施する団体は、次のことがらを十分理解して、その目的達成に努めるものとする。

1. 意義

キャンドルのつどいは、灯のもつ明るさとあたたかさを神秘的な雰囲気の中で見つめながら、自己の過去を省み、現在を知り、未来を考え、これからの人生の活力を生み出す機会にするとともに、参加者の友情を深める。

2. 目的

- (1) 静かに自己を見つめ、自らを高めようとする意欲を培う。
- (2) 仲間との交歓を通じて、お互いの友情を深める。
- (3) キャンドルのつどいのあり方を体験する。

3. 実施の基本事項

- (1) 時 間 19:00～22:00
- (2) 人 員 400名までとする。
- (3) 実施団体 交流の家研修団体
- (4) 運 営 団体の自主運営が望ましい。
- (5) 指 導 実施団体が行うことを原則とするが、依頼があれば交流の家研修指導員が行う。
(1人1回6,600円)
- (6) 担 当 者 1～2名決めておく。
- (7) 安全管理 代表者・担当者は、全体を掌握するとともに安全指導の徹底に努める。
- (8) 事前打合せ（別紙打合せ表による）
担当者は、前日に役割・スタンス・進め方などについて交流の家職員と具体的に打合せする。
- (9) 展開の形態
定型はないので実施団体の任意を原則とするが、指導を依頼される団体は、交流の家の展開方法で実施する。

4. 実施要項

(1) 役割 (スタッフ)

- | | |
|---------------|---|
| ア. 火の長 (1名) | つどいのまとめ役、『はじめのことば』『おわりのことば』を各2分間位のべる。(主として団体の長) |
| イ. 火の司 (1~2名) | 全体の司会・進行 (自主運営の場合) |
| ウ. 火の使 (1名) | 火の長のアシスタント、会場に火を運び点火などを行う。 |
| エ. 火の子 (3~6名) | 各団体や各班やクラスごとに1名。誓いのことばを一言のべる。分火をする。 |
| オ. 会場係 | 事前の準備・事後の整理を行う。 |

(2) 班編成

各団体や各班や各クラスごとに編成し、3班から6班くらいが望ましい。

(3) 場 所

- | | |
|--------|---------------------|
| ア. 体育館 | 400人程度まで |
| イ. 講 堂 | 200人程度まで |
| ウ. 剣道場 | 200人程度まで (シートを使用する) |

(4) 用具

交流の家が貸出できる物

中央燭台および中央燭台用大ローソク・スタッフの燭台 (大) および大ローソク・参加者の燭台 (小)
マイク (ワイヤレス・スタンド)・CD/MD/カセットデッキ・ポータブルペンライト等
まことの火 (移動用ランプ)

各団体で準備する物

スタンプの小道具・小ローソク (参加者数) ※さんべの家売店にもあります。

(5) 展 開

ア. 1部 迎火のつどい 約10分

(火を迎えるセレモニーとして厳粛に実施にする。)

順序	項 目	内 容	留 意 事 項
1	全員整列	<ul style="list-style-type: none">・開始時間までに全員静かに入場し、班ごとに整列する。 (各班の火の子は班内の前列の中央に位置する。)・火の使はローソクに火をつけて火の長とともに指定された場所で待機する。	<ul style="list-style-type: none">・場内消灯する。・私語をやめ厳粛にする。
2	火の長入場	<ul style="list-style-type: none">・参加者は火の司の合図(テープの場合もある。)で『遠き山に日は落ちて』を1回ハミングし、後1番を斉唱する。・火の長は、歌を合図に火の使の後に続き入場し、円内にを左回りに1周し、所定の位置に立つ。	<ul style="list-style-type: none">※指導者によってはカットする場合がある。・火の長は、威厳をもって入場する。・火の使は、ローソクの火が消えないように手で囲いをして、ゆっくり歩く。
3	開会のことば	<ul style="list-style-type: none">・火の司が開会を宣言する。	
4	はじめのことば	<ul style="list-style-type: none">・火の使は火の長の前に出て、礼をして火の長にローソクを渡し、元の位置に立つ。・火の長は、点火されたローソクを高くかざして参加者に示す。・火の長は、一歩前に出てローソクを高くかざして、つどいの意義や目的を厳かに2分程度話す。	<ul style="list-style-type: none">・威厳をもって行う。・ゆっくりと話す。
5	点火	<ul style="list-style-type: none">・火の使は礼をして火の長のローソクを受取り、中央燭台のローソクに点火し、最後に立てて元の位置に立つ。	<ul style="list-style-type: none">・火の司はアシストする。・静かに行う。
6	むすびのことば	<ul style="list-style-type: none">・火の司は、1部のまとめのことばをのべる。・火の司は、2部の導入ことばをのべる。	<ul style="list-style-type: none">・徐々に点灯する。

イ. 2部 交歓のつどい 約50分

(友情と親睦を深めるよう全員協力して楽しく実施する。)

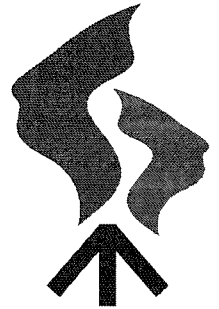
1. ゲーム・ソング・フォークダンスなどを、火の司の進行で行う。
2. 各班のスタンツ（出し物）を、出入りを含めて5分以内で披露する。
3. 火の司のインタビューなどで、楽しい語らいにする。
4. その他、臨機応変に火の司の進行で実施する。

ウ. 3部 送火のつどい 約20分（火を送るセレモニーとして厳粛に実施する。)

順序	項目	内容	留意事項
1	全員整列	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の燭台を持って、1部と同様の隊形に静かに整列する。 ・火の子は、大ローソクを持って1部と同様に位置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場内消灯する。
2	分火	<ul style="list-style-type: none"> ・火の使は、中央燭台の最上段のローソクを残し他を消す。 ・火の使は、最上段に残した火のついたローソクを中央燭台から火の長に渡し、予備のローソクを持って火の長の右に立つ。 ・火の子は、火の司の合図で火の長の前に半円形に整列する。 ・火の長は、各火の子にファイヤーネームを言って分火する。 ・火の子は、分火された火を班に持ち帰り、後・両隣の物に分火する。 ・班員は、それぞれ周りの者に分火する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友情の火、勇気の火、知恵の火など。 ・火の司は、分火にふさわしい適当な言葉をのべる。
3	誓いのことば	<ul style="list-style-type: none"> ・各火の子は、一歩前に出てローソクを高くかざして、『誓いのことば』をのべる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はっきり、ゆっくり述べる。（台本を見ながら言ってもよい） ・「〇組 or 〇班には〇〇の火をいただきました。（誓いのことば中身）…することを誓います。〇組 or 〇班代表 [フルネーム]
4	夜話	<ul style="list-style-type: none"> ・火の司は、研修者にふさわしい詩の朗読や生きがい論について話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・省略する場合もある。
5	おわりのことば	<ul style="list-style-type: none"> ・火の長は、一歩前に出てローソクを高くかざして、つどいをしめくくる内容の『おわりのことば』をおごそかに2分程度話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりと低い調子で話す。

キャンドルのつどい

—火の長の詞(例)—



始めのことば

赤く染まった太陽が静かに三瓶の大地に沈み、夜のとばりはおろされました。大自然の中に浸り、友情と団結を深め、力強く生きることを願ってここに集う皆さん。ここに灯されたキャンドルの火は弱くとも、ひとたび燃えさかれば、すべての醜さを焼き尽くし、世の中を明るく、正しく、力強く、生きるための情熱を獲る大きな原動力となるものと信じています。

聖なる火の下、こよい楽しく過ごそうではありませんか。

終わりのことば

夜もふけ、静寂があたりをおおいはじめました。いつの間にか、この楽しかったひとときが過ぎ去ろうとしています。

このキャンドルの火がやがて皆さんの心に灯され、友情の火として、明るく輝きいつまでも心の中に大切に育てられることを祈ります。

希望に満ちたこれからの人生に、くやしいこと、苦しいこと、悲しいことが待ち受けているかもしれません。そのときにはこの炎・この夜を思い浮かべ、友情の火を支えとして力強く生き抜いてください。